

- 1 事業名 平成28年度教育事業 「体験の風をおこそう」運動協賛事業
How To ボランティア ～ボランティア活動の基本を学ぼう～
兼「NEAL自然体験活動指導者（リーダー）養成研修」
- 2 趣 旨 講義や演習、野外活動体験等の研修をとおして、青少年教育におけるボランティア活動に必要な基礎的な知識・技術について学ぶ機会とする。
- 3 期 日 平成28年5月21日（土）～5月22日（日）
- 4 参加者 ボランティア活動に興味関心をもつ高校生，大学生 71名
（高校生 4名 大学生 67名）
- 5 協 賛 Water Dragon Foundation
NPO法人日本国際ワークキャンプセンター（NICE）
- 6 後 援 岩手県教育委員会

7 内 容

(1) 日 程

5月21日（土）

9:00	9:30	10:00	10:30	12:00	13:00	14:30	14:45	17:45	18:30	19:30	21:00	22:30
受付	開会行事	ガイダンス NEAL	青少年教育施設の 現状と運営	昼食・ 休憩	ボランティア活動の 意義	休憩・ 移動	救急救命法について	夕食・ 休憩	法人ボ ランティア 登録に ついて	青少年教育施設に おけるボランティア 活動	入浴・休憩	就 寝

5月22日（日）

6:30	7:00	7:30	9:00	13:00	13:30	15:00
起床	洗顔・ 清掃	朝の つどい	朝食・休憩	ボランティア活動の技術 課題解決型野外炊事	休憩・ 移動	青少年教育と 体験活動
						閉会 行事
						解 散

(2) 指導者

NPO 法人 NICE

NPO 法人 NICE

国立妙高青少年自然の家

日本赤十字社 岩手県支部

日本赤十字社 岩手県支部

日本赤十字社 岩手県支部

国立岩手山青少年交流の家

国立岩手山青少年交流の家

国立岩手山青少年交流の家

国立岩手山青少年交流の家

国立岩手山青少年交流の家

国立岩手山青少年交流の家

指導補助

企画指導専門職付

赤十字救急法指導員

赤十字救急法指導員

赤十字救急法指導員

所長

副主任企画指導専門職

企画指導専門職

事業推進係長

事業推進係

事業推進係

三上 はる菜 氏

Avery Ikegami 武 氏

及川 未希生 氏

村上 隆志 氏

落合 智恵子 氏

木村 匠 氏

松田 栄二

佐々木 真里子

鎌田 信浩

田口 康宏

山崎 啓陽

高橋 知也

法人ボランティア

(3) 企画のポイント

ボランティア活動に興味関心をもつ高校生，大学生に向けて，ボランティア活動の基本を講義・演習をとおして学び，ボランティアとして活動する上で必要な資質や施設を活用するためのスキ

ルを身に付けさせるため、事業のプログラム構成に当たっては、魅力的な体験プログラム、魅力的なボランティア仲間、魅力的な講師を意識した。

また、NEAL リーダー養成研修として、ボランティア活動とともに自然体験活動への興味・関心が広がるようにした。

(4) 広報のポイント

岩手山独自のチラシの中に、東北地区国立青少年教育施設の4施設（岩手山、花山、磐梯、那須甲子）のボランティア養成講座の日程等を盛り込むことで他施設との連携も図った。青森、秋田、岩手の三県の大学と岩手県内の高等学校には、チラシを配布する広報を行った。また、施設のホームページにおいて、参加フォームを設け、インターネット上から申し込めるようにした。盛岡大学には、年度初めの4月に事業のガイダンスを実施し、事業の趣旨や内容の説明と広報を行った。過去の事業の様子をスライドショーで紹介し、事業内容がイメージしやすいようにした。高校においては、前年度まで参加した生徒のいる学校に電話をして広報を行った。さらに今年度は、遠野方面からの参加者に向けたポスターを作成するとともに、遠野発のバス送迎も計画し、参加しやすい体制にしたことも広報に加えた。

(5) 運営のポイント

機構の共通カリキュラムをもとに事業を推進する中で、ボランティアに対する理論や知識を習得するとともに、アイスブレイクを随所に入れながら、71名の参加者のコミュニケーションが十分にとれるように進めた。

ボランティアの養成を行うにあたり、参加者が意欲的に講義・演習を実施できるようなプログラムを構成した。野外活動を安全に行うための知識を学び、活動中も安全管理を意識させた。

参加者にとって、ボランティアスタッフの動きは、参加者自らがボランティア活動に一步踏み出すためのモデルとなるため、ボランティアスタッフが参加者の身近な手本となるよう、学生のボランティアスタッフをグループに配置したり、ボランティアスタッフが前に出て活動したりすることで、参加者もボランティアスタッフも相互にかかわり合いながら活動を進めた。また、ボランティアスタッフも、自分たちのスキルアップを図る機会となるようにした。

8 成果とその普及

2日間をとおして、講師と参加者の架け橋としてボランティアスタッフが細やかに活動したこともあり、参加者は意欲を持続して取り組む様子が見られた。国立妙高青少年自然の家から招聘した及川氏の講義により、当施設がこれまで推し進めていた「ボランティア育成ビジョン」と今後のボランティア像などの理解を体験的に深めることができた。

参加者71名中、法人ボランティア登録を行ったのは70名と、本事業の参加者に対して、ボランティア活動の意義や魅力を伝えることができた。アンケートの自由記述からも、青少年教育におけるボランティアに興味を感じている記述が見られ、これからの本施設の事業にボランティアスタッフとして関わりたいと考えている参加者も多く見られた。

また、東北4施設の連携として花山青少年自然の家の職員が、当施設の事業の様子を視察し、相互に情報交換をすることができた。

9 今後の課題

登録した法人ボランティアが当所できいきと活動が出来るように、ボランティア・ブラッシュアップ・プロジェクトへの参加を促して研修の機会を設けたり、ボランティア・ブラッシュアップ・プロジェクトの内容についても検討したりして、継続的なボランティアの育成を行っていく必要がある。



救急救命法の様子



野外炊事の様子



講義の様子